



プライベート VLAN の設定

この章では、Catalyst 3560 スイッチにプライベート VLAN（仮想 LAN）を設定する方法について説明します。



(注) この章で使用するコマンドの構文および使用方法の詳細については、このリリースのコマンド リファレンスを参照してください。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- [プライベート VLAN の概要 \(p.14-2\)](#)
- [プライベート VLAN の設定 \(p.14-7\)](#)
- [プライベート VLAN のモニタリング \(p.14-16\)](#)



(注) プライベート VLAN を設定した場合、スイッチは VLAN Trunking Protocol (VTP; VLAN トランキングプロトコル) トランスペアレント モードでなければなりません。第 13 章「[VTP の設定](#)」を参照してください。

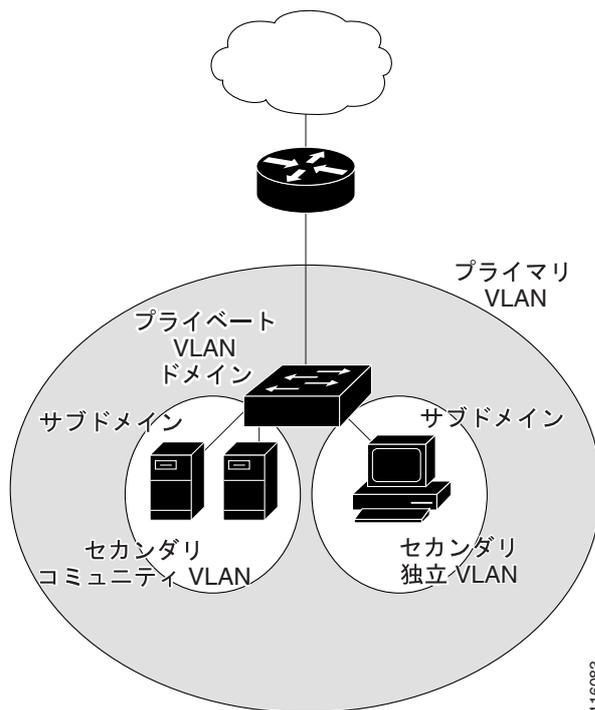
プライベート VLAN の概要

プライベート VLAN 機能は、サービス プロバイダーが VLAN を使用している場合に直面する 2 つの問題に対処します。

- スケーラビリティ：スイッチは最大 1005 のアクティブ VLAN をサポートします。サービス プロバイダーが 1 カスタマーあたり 1 つの VLAN を割り当てる場合、サービス プロバイダーがサポートできるカスタマー数はこれに制限されます。
- IP ルーティングをイネーブルにするには、各 VLAN にサブネット アドレス空間またはアドレス ブロックを割り当てますが、これにより、未使用の IP アドレスが無駄になり、IP アドレスの管理に問題が起きます。

プライベート VLAN を使用することでスケーラビリティの問題に対処することができ、サービス プロバイダーにとっては IP アドレス管理上の利得がもたらされ、カスタマーに対してはレイヤ 2 セキュリティを提供できます。プライベート VLAN では、通常の VLAN ドメインをサブドメインに分割します。サブドメインは、プライマリ VLAN およびセカンダリ VLAN という VLAN のペアで表現されます。プライベート VLAN には複数の VLAN ペアを設定可能で、各サブドメインにつき 1 ペアになります。プライベート VLAN 内のすべての VLAN ペアは同じプライマリ VLAN を共有します。セカンダリ VLAN ID は、あるサブドメインを別のものと区別します。図 14-1 を参照してください。

図 14-1 プライベート VLAN ドメイン



セカンダリ VLAN には 2 種類あります。

- 独立 VLAN — 独立 VLAN 内のポートは、レイヤ 2 レベルで互いに通信できません。
- コミュニティ VLAN — コミュニティ VLAN 内のポートは互いに通信できますが、レイヤ 2 レベルにある他のコミュニティ内のポートとは通信できません。

プライベート VLAN では、同じプライベート VLAN 内のポート間をレイヤ 2 で分離します。プライベート VLAN ポートには、次の 3 つのタイプがあります。

- 混合 — 混合ポートは、プライベート VLAN に属し、プライマリ VLAN と関連しているセカンダリ VLAN に属するコミュニティ ポートや独立ホスト ポートなどの、すべてのインターフェイスと通信できます。
- 独立 — 独立ポートは、独立セカンダリ VLAN に属するホスト ポートです。これは、混合ポートを除く、同じプライベート VLAN 内の他のポートからレイヤ 2 で完全に分離されています。プライベート VLAN では、混合ポートからのトラフィックを除く、独立ポートへのすべてのトラフィックをブロックします。独立ポートで受信されるトラフィックは、混合ポートへのみ転送されます。
- コミュニティ — コミュニティ ポートは、コミュニティ セカンダリ VLAN に属するホスト ポートです。コミュニティ ポートは、同じコミュニティ VLAN にある他のポートおよび混合ポートと通信します。これらのインターフェイスは、他のコミュニティの他のすべてのインターフェイスおよびプライベート VLAN 内の独立ポートとレイヤ 2 で分離されます。



(注)

トランク ポートは、通常の VLAN からのトラフィックを伝送し、またプライマリ、独立、およびコミュニティ VLAN からのトラフィックも伝送します。

プライマリおよびセカンダリ VLAN には次のような特性があります。

- プライマリ VLAN — プライベート VLAN には、プライマリ VLAN を 1 つだけ設定できます。プライベート VLAN 内のすべてのポートは、プライマリ VLAN のメンバーです。プライマリ VLAN は、混合ポートからの単一方向トラフィックのダウンストリームを、(独立およびコミュニティ) ホスト ポートおよび他の混合ポートへ伝送します。
- 独立 VLAN — プライベート VLAN の独立 VLAN は 1 つだけです。独立 VLAN は、ホストからの単一方向トラフィック アップストリームを混合ポートおよびゲートウェイへ伝送するセカンダリ VLAN です。
- コミュニティ VLAN — コミュニティ VLAN は、コミュニティ ポートからのアップストリームトラフィックを混合ポート ゲートウェイおよび同じコミュニティ内の他のホスト ポートへ伝送するセカンダリ VLAN です。複数のコミュニティ VLAN を 1 つのプライベート VLAN に設定できます。

混合ポートが扱えるのは、1 つのプライマリ VLAN、1 つの独立 VLAN、および複数のコミュニティ VLAN のみです。レイヤ 3 ゲートウェイは通常混合ポートを介してスイッチに接続されています。混合ポートを使用すると、幅広いデバイスをプライベート VLAN へのアクセス ポートとして接続できます。たとえば、すべてのプライベート VLAN サーバを管理ワークステーションからモニタしたりバックアップしたりするのに、混合ポートを使用できます。

スイッチング環境では、個々のエンド ステーションまたはエンド ステーションの共通グループに、個別のプライベート VLAN と関連する IP サブネットを割り当てることができます。エンド ステーションがデフォルト ゲートウェイと対話する必要があるのは、プライベート VLAN 外部と通信する場合のみです。

プライベート VLAN を使用してエンド ステーションへのアクセスを次のように制御できます。

- エンド ステーションに接続されているインターフェイスを選択して独立ポートとして設定し、レイヤ 2 の通信をしないようにします。たとえば、エンド ステーションがサーバの場合、この設定によりサーバ間のレイヤ 2 通信ができなくなります。
- デフォルト ゲートウェイおよび選択したエンド ステーション (たとえばバックアップ サーバなど) に接続されたインターフェイスを混合ポートとして設定します。これにより、すべてのエンド ステーションがデフォルト ゲートウェイに接続できます。

プライマリ、独立、およびコミュニティ VLAN をプライベート VLAN をサポートする他のデバイスにトランキングすることで、プライベート VLAN を複数のデバイスに拡張できます。プライベート VLAN コンフィギュレーションのセキュリティを保って VLAN の他のユーザがプライベート VLAN に設定されないようにするには、プライベート VLAN ポートのないデバイスを含む、すべての中間デバイス内にプライベート VLAN を設定します。

プライベート VLAN での IP アドレッシング方式

各カスタマーに個別の VLAN を割り当てると、次のように IP アドレッシング方式が非効率的になります。

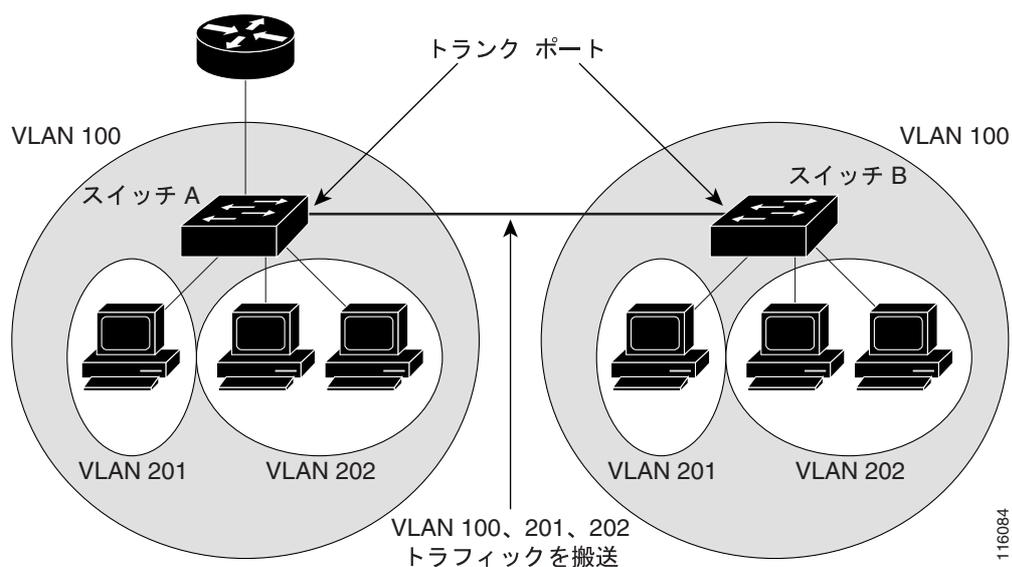
- カスタマーの VLAN にアドレスブロックを割り当てると、未使用の IP アドレスが出てきます。
- VLAN 内のデバイス数が増加した場合、それに対応するだけのアドレスを割り当てられない場合があります。

これらの問題は、プライベート VLAN を使用することで軽減できます。この場合、プライベート VLAN 内のすべてのメンバーがプライマリ VLAN に割り当てられた共通アドレス空間を共有します。ホストはセカンダリ VLAN に接続され、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) サーバがプライマリ VLAN に割り当てられたアドレスブロックから IP アドレスを割り当てます。後続の IP アドレスは、同じプライマリ VLAN にある別のセカンダリ VLAN にあるカスタマー デバイスに割り当てることができます。新しいデバイスが追加されると、DHCP サーバはサブネットアドレスの大きなプールから次に使用可能なアドレスをデバイスに割り当てます。

複数のスイッチにまたがるプライベート VLAN

通常の VLAN と同様に、プライベート VLAN を複数のスイッチにまたがるように設定できます。トランク ポートはプライマリ VLAN およびセカンダリ VLAN を隣接スイッチに伝送します。トランク ポートはプライベート VLAN を他の VLAN として扱います。複数のスイッチにまたがるプライベート VLAN の機能の場合、スイッチ A にある独立ポートからのトラフィックはスイッチ B に到達しません。図 14-2 を参照してください。

図 14-2 複数のスイッチにまたがるプライベート VLAN



VLAN 100 = プライマリ VLAN
 VLAN 201 = セカンダリ独立 VLAN
 VLAN 202 = セカンダリ コミュニティ VLAN

116084

VTP はプライベート VLAN をサポートしないので、レイヤ 2 ネットワーク内のすべてのスイッチにプライベート VLAN を手動で設定する必要があります。ネットワーク内の一部のスイッチにプライマリおよびセカンダリ VLAN の関連を設定しない場合、これらのスイッチのレイヤ 2 データベースは統合されません。これにより、これらのスイッチにプライベート VLAN トラフィックの不要なフラディングが発生する可能性があります。



(注)

プライベート VLAN をスイッチに設定するときに、ユニキャストルートとレイヤ 2 エントリとの間のシステム リソースのバランスを取るために、常にデフォルトの Switch Database Management (SDM) テンプレートを **使用する** してください。別の SDM テンプレートが設定されている場合、デフォルトテンプレートを設定するのに **sdm prefer default** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。第 7 章「SDM テンプレートの設定」を参照してください。

プライベート VLAN の他機能との相互作用

プライベート VLAN には、次のように他の機能と相互作用があります。

- プライベート VLAN とユニキャスト、ブロードキャスト、およびマルチキャスト トラフィック (p.14-5)
- プライベート VLAN と SVI (p.14-6)

「プライベート VLAN 設定時の注意事項」の下にある「セカンダリおよびプライマリ VLAN の設定」(p.14-8) も参照してください。

プライベート VLAN とユニキャスト、ブロードキャスト、およびマルチキャスト トラフィック

通常の VLAN では、同じ VLAN にあるデバイスはレイヤ 2 レベルで互いに通信しますが、別の VLAN にあるインターフェイスに接続されたデバイスとはレイヤ 3 レベルで通信する必要があります。プライベート VLAN では、混合ポートはプライマリ VLAN のメンバーで、ホストポートはセカンダリ VLAN に属しています。セカンダリ VLAN はプライマリ VLAN に対応付けられているため、これらの VLAN のメンバーはレイヤ 2 レベルで互いに通信できます。

通常の VLAN では、ブロードキャストはその VLAN 内のすべてのポートに転送されます。プライベート VLAN ブロードキャスト転送は、次のようにブロードキャストを送信するポートに左右されます。

- 独立ポートはブロードキャストを混合ポートまたはトランク ポートにだけ送信します。
- コミュニティ ポートは、すべての混合ポート、トランク ポート、および同じコミュニティ VLAN 内のポートにブロードキャストを送信します。
- 混合ポートは、プライベート VLAN のすべてのポート (他の混合ポート、トランク ポート、独立ポート、コミュニティ ポート) にブロードキャストを送信します。

マルチキャスト トラフィックは、プライベート VLAN 境界を越えて単一のコミュニティ VLAN 内にルーティングまたはブリッジングされます。マルチキャスト トラフィックは、同じ独立 VLAN 内のポート間で転送されず、また別のセカンダリ VLAN 内のポート間でも転送されません。

プライベート VLAN と SVI

レイヤ 3 スイッチでは、Switch Virtual Interface (SVI; スイッチ仮想インターフェイス) が VLAN のレイヤ 3 インターフェイスを表します。レイヤ 3 デバイスは、セカンダリ VLAN ではなくプライマリ VLAN を介してのみプライベート VLAN と通信します。レイヤ 3 VLAN インターフェイス (SVI) をプライマリ VLAN に対してのみ設定します。レイヤ 3 VLAN インターフェイスをセカンダリ VLAN 用に設定できません。セカンダリ VLAN 用の SVI は、VLAN がセカンダリ VLAN として設定されている間は非アクティブです。

- アクティブ SVI を設定した VLAN をセカンダリ VLAN として設定しようとする、SVI をディセーブルにするまで設定が許可されません。
- セカンダリ VLAN として設定されている VLAN に SVI を作成しようとしてセカンダリ VLAN がすでにレイヤ 3 にマッピングされている場合、SVI は作成されず、エラーが返されます。SVI がレイヤ 3 にマッピングされていない場合、SVI は作成されますが、自動的にシャットダウンされます。

プライマリ VLAN がセカンダリ VLAN に対応付けられていてマッピングされていると、プライマリ VLAN 上の設定はセカンダリ VLAN SVI に伝播されます。たとえば、IP サブネットをプライマリ VLAN SVI に割り当てる場合、このサブネットはプライベート VLAN 全体の IP サブネットアドレスです。

プライベート VLAN の設定

ここでは、次の設定情報について説明します。

- [プライベート VLAN の設定手順 \(p.14-7\)](#)
- [デフォルトのプライベート VLAN 設定 \(p.14-7\)](#)
- [プライベート VLAN 設定時の注意事項 \(p.14-8\)](#)
- [プライベート VLAN 内の VLAN の設定および対応付け \(p.14-11\)](#)
- [プライベート VLAN ホスト ポートとしてのレイヤ 2 インターフェイスの設定 \(p.14-12\)](#)
- [プライベート VLAN 混合ポートとしてのレイヤ 2 インターフェイスの設定 \(p.14-13\)](#)
- [セカンダリ VLAN のプライマリ VLAN レイヤ 3 VLAN インターフェイスへのマッピング \(p.14-14\)](#)

プライベート VLAN の設定手順

プライベート VLAN を設定するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 VTP モードをトランスペアレントに設定します。

ステップ 2 プライマリおよびセカンダリ VLAN を作成してこれらに対応付けします。「[プライベート VLAN 内の VLAN の設定および対応付け](#)」(p.14-11) を参照してください。



(注) VLAN がまだ作成されていない場合、プライベート VLAN 設定プロセスでこれを作成します。

ステップ 3 インターフェイスを独立ポートまたはコミュニティ ホスト ポートに設定して、ホスト ポートに VLAN メンバーシップを割り当てます。「[プライベート VLAN ホスト ポートとしてのレイヤ 2 インターフェイスの設定](#)」(p.14-12) を参照してください。

ステップ 4 インターフェイスを混合ポートとして設定し、混合ポートをプライマリおよびセカンダリ VLAN のペアにマッピングします。「[プライベート VLAN 混合ポートとしてのレイヤ 2 インターフェイスの設定](#)」(p.14-13) を参照してください。

ステップ 5 VLAN 間ルーティングを使用している場合、プライマリ SVI を設定し、セカンダリ VLAN をプライマリ SVI にマッピングします。「[セカンダリ VLAN のプライマリ VLAN レイヤ 3 VLAN インターフェイスへのマッピング](#)」(p.14-14) を参照してください。

ステップ 6 プライマリ VLAN 設定を確認します。

デフォルトのプライベート VLAN 設定

プライベート VLAN は設定されていません。

プライベート VLAN 設定時の注意事項

プライベート VLAN 設定時の注意事項は、次のカテゴリに分けられます。

- セカンダリおよびプライマリ VLAN の設定 (p.14-8)
- プライベート VLAN ポート設定 (p.14-9)
- 他の機能との間の制限 (p.14-10)

セカンダリおよびプライマリ VLAN の設定

プライベート VLAN の設定を行うときは、次の注意事項に従ってください。

- VTP をトランスペアレント モードに設定します。プライベート VLAN の設定が終わったら、VTP モードをクライアントやサーバに変更しないでください。VTP の詳細については、第 13 章「VTP の設定」を参照してください。
- プライベート VLAN を設定するには、VLAN 設定 (config-vlan) モードを使用する必要があります。VLAN データベース コンフィギュレーション モードではプライベート VLAN を設定できません。VLAN 設定の詳細については、「VLAN コンフィギュレーション モードのオプション」(p.12-8) を参照してください。
- プライベート VLAN を設定後、`copy running-config startup config` イネーブル EXEC コマンドを使用して VTP トランスペアレント モード設定およびプライベート VLAN 設定をスイッチ スタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存します。保存しないと、スイッチをリセットした場合、デフォルトの VTP サーバ モードになり、プライベート VLAN をサポートしなくなります。
- VTP はプライベート VLAN 設定を伝播しません。プライベート VLAN ポートが必要な各デバイスにプライベート VLAN を設定する必要があります。
- VLAN 1 または VLAN 1002 ~ 1005 をプライマリまたはセカンダリ VLAN に設定できません。拡張 VLAN (VLAN ID 1006 ~ 4094) はプライベート VLAN に属することができます。
- プライマリ VLAN には 1 つの独立 VLAN とこれに対応付けられた複数のコミュニティ VLAN を設定できます。独立またはコミュニティ VLAN には、これに対応付けられたプライマリ VLAN を 1 つだけ設定できます。
- プライベート VLAN には複数の VLAN が含まれますが、プライベート VLAN 全体で実行可能な Spanning-Tree Protocol (STP; スパニングツリー プロトコル) インスタンスは 1 つだけです。セカンダリ VLAN がプライマリ VLAN に対応付けられている場合、プライマリ VLAN の STP パラメータはセカンダリ VLAN に伝播されます。
- プライベート VLAN で DHCP スヌーピングをイネーブルにできます。プライマリ VLAN で DHCP スヌーピングをイネーブルにする場合、セカンダリ VLAN に伝播されます。セカンダリ VLAN に DHCP を設定する場合、その設定はプライマリ VLAN がすでに設定されていないと有効になりません。
- プライベート VLAN ポートで IP ソース ガードをイネーブルにする場合は、プライマリ VLAN で DHCP スヌーピングをイネーブルにする必要があります。
- プライベート VLAN 内でトラフィックを伝送していないデバイスのトランクからプライベート VLAN をプルニングすることを推奨します。
- プライマリ VLAN、独立 VLAN、およびコミュニティ VLAN に別々の Quality of Service (QoS; サービス品質) 設定を適用できます。
- プライベート VLAN を設定する際に、Sticky Address Resolution Protocol (ARP; アドレス解決プロトコル) がデフォルトでイネーブルの場合、レイヤ 3 プライベート VLAN インターフェイスで学習される ARP エントリが Sticky ARP エントリになります。セキュリティ上の理由から、プライベート VLAN ポートの Sticky ARP エントリには期限切れがありません。



(注) プライベート VLAN インターフェイスの ARP エントリを表示して確認することを推奨します。

異なる MAC (メディア アクセス制御) アドレスを使用してデバイスを接続すると、メッセージが生成されて ARP エントリは作成されません。プライベート VLAN ポートの Sticky ARP エントリには期限切れがないため、MAC アドレスが変更された場合はプライベート VLAN ポートの Sticky ARP エントリを手動で削除する必要があります。

- **no arp ip-address** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してプライベート VLAN ARP エントリを削除できます。
- **arp ip-address hardware-address type** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してプライベート VLAN ARP エントリを追加できます。
- プライマリおよびセカンダリ VLAN で VLAN マップを設定できます (「[VLAN マップの設定](#)」[\[p.31-33\]](#)を参照)。ただし、プライベート VLAN のプライマリおよびセカンダリ VLAN に同じ VLAN マップを設定することを推奨します。
- フレームがプライベート VLAN 内で転送されるレイヤ 2 の場合、同じ VLAN マップが入力側と出力側の両方に適用されます。フレームがプライベート VLAN の内側から外部ポートにルーティングされる場合、プライベート VLAN マップが入力側に適用されます。
 - ホスト ポートから混合ポートへのアップストリームで送信されるフレームの場合、セカンダリ VLAN に設定されている VLAN マップが適用されます。
 - 混合ポートからホストポートへのダウンストリームで送信されるフレームの場合、プライマリ VLAN に設定されている VLAN マップが適用されます。

プライベート VLAN の特定の IP トラフィックをフィルタリングするには、VLAN マップをプライマリおよびセカンダリ VLAN の両方に適用します。

- プライマリ VLAN SVI にのみルータ Access Control List (ACL; アクセス制御リスト) を適用できます。ACL はプライマリおよびセカンダリ VLAN のレイヤ 3 トラフィックに適用されます。
- プライベート VLAN がレイヤ 2 でホストを分離していても、ホストはレイヤ 3 で互いに通信できます。
- プライベート VLAN は、次の Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチドポートアナライザ) 機能をサポートします。
 - プライベート VLAN を SPAN 送信元ポートとして設定できます。
 - VLAN-based SPAN (VSPAN) はプライマリ VLAN、独立 VLAN、およびコミュニティ VLAN で使用できます。また、出力または入力トラフィックを別々にモニタするために、1 つの VLAN でのみ SPAN を使用できます。

プライベート VLAN ポート設定

プライベート VLAN ポートの設定を行うときは、次の注意事項に従ってください。

- プライマリ VLAN、独立 VLAN、またはコミュニティ VLAN にポートを割り当てるには、プライベート VLAN 設定コマンドのみを使用します。プライマリ VLAN、独立 VLAN、またはコミュニティ VLAN として設定した VLAN に割り当てられたレイヤ 2 アクセスポートは、VLAN がプライベート VLAN 設定の一部の間は非アクティブになります。レイヤ 2 トランク インターフェイスは STP フォワーディング状態のままです。
- Port Aggregation Protocol (PAgP; ポート集約プロトコル) または Link Aggregation Control Protocol (LACP) EtherChannel に属するポートをプライベート VLAN ポートとして設定しないでください。ポートがプライベート VLAN 設定の一部である間は、ポートの EtherChannel 設定は非アクティブです。
- 誤った設定による STP ループを発生させず、STP コンバージェンスを高速にするために、独立およびコミュニティ ホスト ポートで PortFast および BPDU (ブリッジプロトコル データユニット) ガードをイネーブルにします (第 19 章「[オプションのスパンニングツリー機能の設定](#)」を参照)。イネーブルの場合、STP はすべての PortFast が設定されたレイヤ 2 LAN ポートに BPDU ガード機能を適用します。PortFast および BPDU ガードを混合ポートでイネーブルにしないでください。
- プライベート VLAN 設定で VLAN を削除した場合、VLAN に対応付けられたプライベート VLAN ポートが非アクティブになります。

- デバイスがトランクに接続されていてプライマリおよびセカンダリ VLAN がトランクから削除されていない場合、プライベート VLAN ポートを別のネットワーク デバイス上に設定できません。

他の機能との間の制限

プライベート VLAN を設定する際に、他の機能との間で次のような制限があることに留意してください。



(注)

エラー メッセージなしで設定が受け入れられていてもコマンドが機能しない場合があります。

- フォールバック ブリッジングをプライベート VLAN のスイッチに設定しないでください。
- Internet Group Management Protocol (IGMP) スヌーピングがスイッチ上でイネーブル (デフォルト) の場合、スイッチ がサポートするプライベート VLAN ドメインは、20 個だけです。
- Remote SPAN (RSPAN; リモート SPAN) をプライベート VLAN のプライマリまたはセカンダリ VLAN として設定しないでください。

SPAN の詳細については、第 27 章「SPAN および RSPAN の設定」を参照してください。

- 次のような機能が設定されているインターフェイスにプライベート VLAN ポートを設定しないでください。
 - ダイナミック アクセス ポート VLAN メンバーシップ
 - Dynamic Trunking Protocol (DTP; ダイナミック トランッキング プロトコル)
 - PAgP
 - LACP
 - Multicast VLAN Registration (MVR; マルチキャスト VLAN レジストレーション)
 - 音声 VLAN
- プライベート VLAN ポートは、セキュア ポートにすることはできず、保護ポートとして設定しないでください。
- IEEE 802.1x ポートベース認証をプライベート VLAN ポートに設定できますが、802.1x とポート セキュリティ、音声 VLAN、またはポート単位のユーザ ACL を、プライベート VLAN ポートに設定できません。
- プライベート VLAN ホストまたは混合ポートは SPAN 宛先ポートにはできません。SPAN 宛先ポートをプライベート VLAN ポートに設定した場合、ポートは非アクティブになります。
- プライマリ VLAN 内の混合ポートにスタティック MAC アドレスを設定した場合、同じスタティック アドレスをすべての関連セカンダリ VLAN に追加する必要があります。セカンダリ VLAN 内ポートにスタティック MAC アドレスを設定した場合、同じスタティック アドレスをすべての関連プライマリ VLAN に追加する必要があります。スタティック MAC アドレスをプライベート VLAN ポートから削除する際に、設定されている MAC アドレスのすべてのインスタンスをプライベート VLAN から削除する必要があります。



(注)

プライベート LAN 上にある 1 つの VLAN で学習されたダイナミック MAC アドレスは、関連 VLAN に複製されます。たとえば、セカンダリ VLAN で学習された MAC アドレスはプライマリ VLAN に複製されます。元のダイナミック MAC アドレスが削除されたり期限が切れた場合、複製アドレスは MAC アドレス テーブルから削除されます。

- レイヤ 3 VLAN インターフェイス (SVI) をプライマリ VLAN に対してのみ設定します。

プライベート VLAN 内の VLAN の設定および対応付け

プライベート VLAN を設定するには、イネーブル EXEC モードで次の手順を行います。



(注) `private-vlan` コマンドは VLAN コンフィギュレーション モードを終了するまで機能しません。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>vtp mode transparent</code>	VTP モードをトランスペアレントに設定します (VTP をデフォルトにします)。
ステップ 3	<code>vlan vlan-id</code>	VLAN コンフィギュレーション モードを開始して、プライマリ VLAN となる VLAN を指定するか作成します。VLAN ID の範囲は 2 ~ 1001 および 1006 ~ 4094 です。
ステップ 4	<code>private-vlan primary</code>	VLAN をプライマリ VLAN として指定します。
ステップ 5	<code>exit</code>	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 6	<code>vlan vlan-id</code>	(任意) VLAN コンフィギュレーション モードを開始して、独立 VLAN となる VLAN を指定するか作成します。VLAN ID の範囲は 2 ~ 1001 および 1006 ~ 4094 です。
ステップ 7	<code>private-vlan isolated</code>	VLAN を独立 VLAN として指定します。
ステップ 8	<code>exit</code>	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 9	<code>vlan vlan-id</code>	(任意) VLAN コンフィギュレーション モードを開始して、コミュニティ VLAN となる VLAN を指定するか作成します。VLAN ID の範囲は 2 ~ 1001 および 1006 ~ 4094 です。
ステップ 10	<code>private-vlan community</code>	VLAN をコミュニティ VLAN として指定します。
ステップ 11	<code>exit</code>	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 12	<code>vlan vlan-id</code>	ステップ 2 で指定したプライマリ VLAN 用の VLAN コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 13	<code>private-vlan association [add remove] secondary_vlan_list</code>	セカンダリ VLAN をプライマリ VLAN に関連付けます。
ステップ 14	<code>end</code>	イネーブル EXEC モードに戻ります。
ステップ 15	<code>show vlan private-vlan [type]</code> または <code>show interfaces status</code>	設定を確認します。
ステップ 16	<code>copy running-config startup config</code>	スイッチのスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。プライベート VLAN 設定を保存するには、スイッチのスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに VTP トランスペアレント モード設定とプライベート VLAN 設定を保存する必要があります。保存しないと、スイッチをリセットした場合、デフォルトの VTP サーバモードになり、プライベート VLAN をサポートしなくなります。

■ プライベート VLAN の設定

セカンダリ VLAN をプライマリ VLAN に関連付ける際に、構文に関して次のことに留意してください。

- *secondary_vlan_list* パラメータにはスペースを含められません。項目を分けるためにコンマを複数使用できます。各項目には、単独のプライベート VLAN ID またはハイフンを使用したプライベート VLAN ID の範囲を指定できます。
- *secondary_vlan_list* パラメータには複数のコミュニティ VLAN ID を含められますが、独立 VLAN ID は 1 つだけです。
- *secondary_vlan_list* を入力するか、または **add** キーワードを指定した *secondary_vlan_list* を使用してセカンダリ VLAN とプライマリ VLAN を関連付けます。
- **remove** キーワードとともに *secondary_vlan_list* を使用して、セカンダリ VLAN とプライマリ VLAN の関連付けを解除します。
- このコマンドは、VLAN コンフィギュレーション モードを終了するまで機能しません。

次に、VLAN 20 をプライマリ VLAN、VLAN 501 を独立 VLAN、VLAN 502 および 503 をコミュニティ VLAN として設定し、これらをプライベート VLAN 内で関連付けして、設定を確認する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# vlan 20
Switch(config-vlan)# private-vlan primary
Switch(config-vlan)# exit
Switch(config)# vlan 501
Switch(config-vlan)# private-vlan isolated
Switch(config-vlan)# exit
Switch(config)# vlan 502
Switch(config-vlan)# private-vlan community
Switch(config-vlan)# exit
Switch(config)# vlan 503
Switch(config-vlan)# private-vlan community
Switch(config-vlan)# exit
Switch(config)# vlan 20
Switch(config-vlan)# private-vlan association 501-503
Switch(config-vlan)# end
Switch(config)# show vlan private vlan
Primary Secondary Type          Ports
-----
20      501      isolated
20      502      community
20      503      community
20      504      non-operational
```

プライベート VLAN ホスト ポートとしてのレイヤ 2 インターフェイスの設定

レイヤ 2 インターフェイスをプライベート VLAN ホスト ポートとして設定し、これをプライマリ およびセカンダリ VLAN と関連付けるには、イネーブル EXEC モードで次の手順を実行します。



(注) 独立およびコミュニティ VLAN はいずれもセカンダリ VLAN です。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>interface interface-id</code>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始し、設定するレイヤ 2 インターフェイスを指定します。

	コマンド	目的
ステップ 3	switchport mode private-vlan host	レイヤ 2 ポートをプライベート VLAN ホスト ポートとして設定します。
ステップ 4	switchport private-vlan host-association <i>primary_vlan_id secondary_vlan_id</i>	レイヤ 2 ポートをプライベート VLAN に関連付けます。
ステップ 5	end	イネーブル EXEC モードに戻ります。
ステップ 6	show interfaces [<i>interface-id</i>] switchport	設定を確認します。
ステップ 7	copy running-config startup config	(任意) スイッチのスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

次に、インターフェイスをプライベート VLAN ホスト ポートとして設定し、これにプライベート VLAN ペアを関連付けて、設定を確認する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# interface fastethernet0/22
Switch(config-if)# switchport mode private-vlan host
Switch(config-if)# switchport private-vlan host-association 20 25
Switch(config-if)# end
Switch# show interfaces fastethernet0/22 switchport
Name: Fa0/22
Switchport: Enabled
Administrative Mode: private-vlan host
Operational Mode: private-vlan host
Administrative Trunking Encapsulation: negotiate
Operational Trunking Encapsulation: native
Negotiation of Trunking: Off
Access Mode VLAN: 1 (default)
Trunking Native Mode VLAN: 1 (default)
Administrative Native VLAN tagging: enabled
Voice VLAN: none
Administrative private-vlan host-association: 20 (VLAN0020) 25 (VLAN0025)
Administrative private-vlan mapping: none
Administrative private-vlan trunk native VLAN: none
Administrative private-vlan trunk Native VLAN tagging: enabled
Administrative private-vlan trunk encapsulation: dot1q
Administrative private-vlan trunk normal VLANs: none
Administrative private-vlan trunk private VLANs: none
Operational private-vlan:
20 (VLAN0020) 25 (VLAN0025)
```

(テキスト出力は省略)

プライベート VLAN 混合ポートとしてのレイヤ 2 インターフェイスの設定

レイヤ 2 インターフェイスをプライベート VLAN 混合ポートとして設定し、これをプライマリおよびセカンダリ VLAN にマッピングするには、イネーブル EXEC モードで次の手順を実行します。



(注) 独立およびコミュニティ VLAN はいずれもセカンダリ VLAN です。

■ プライベート VLAN の設定

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>interface interface-id</code>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始し、設定するレイヤ 2 インターフェイスを指定します。
ステップ 3	<code>switchport mode private-vlan promiscuous</code>	レイヤ 2 ポートをプライベート VLAN 混合ポートとして設定します。
ステップ 4	<code>switchport private-vlan mapping primary_vlan_id {add remove} secondary_vlan_list</code>	プライベート VLAN 混合ポートをプライマリ VLAN と選択したセカンダリ VLAN にマッピングします。
ステップ 5	<code>end</code>	イネーブル EXEC モードに戻ります。
ステップ 6	<code>show interfaces [interface-id] switchport</code>	設定を確認します。
ステップ 7	<code>copy running-config startup config</code>	(任意) スイッチのスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

レイヤ 2 インターフェイスをプライベート VLAN 混合ポートとして設定した場合、構文に関して次のことに留意してください。

- `secondary_vlan_list` パラメータにはスペースを含められません。項目を分けるためにコンマを複数使用できます。各項目には、単独のプライベート VLAN ID またはハイフンを使用したプライベート VLAN ID の範囲を指定できます。
- `secondary_vlan_list` を入力するか、または `add` キーワードを指定した `secondary_vlan_list` を使用してセカンダリ VLAN とプライマリ VLAN をプライベート VLAN 混合ポートにマッピングします。
- `remove` キーワードを指定した `secondary_vlan_list` を使用して、セカンダリ VLAN とプライベート VLAN 混合ポートのマッピングを解除します。

次に、インターフェイスをプライベート VLAN 混合ポートとして設定してそれをプライベート VLAN にマッピングする例を示します。インターフェイスはプライマリ VLAN 20 のメンバーで、セカンダリ VLAN 501 ~ 503 はこれにマッピングされます。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# interface fastethernet0/2
Switch(config-if)# switchport mode private-vlan promiscuous
Switch(config-if)# switchport private-vlan mapping 20 add 501-503
Switch(config-if)# end
```

`show vlan private-vlan` または `show interface status` イネーブル EXEC コマンドを使用してプライマリおよびセカンダリ VLAN とスイッチ上のプライベート VLAN ポートを表示します。

セカンダリ VLAN のプライマリ VLAN レイヤ 3 VLAN インターフェイスへのマッピング

プライベート VLAN が VLAN 間ルーティングに使用される場合、SVI をプライマリ VLAN に設定してセカンダリ VLAN を SVI にマッピングできます。



(注) 独立およびコミュニティ VLAN はいずれもセカンダリ VLAN です。

セカンダリ VLAN をプライマリ VLAN の SVI にマッピングしてプライベート VLAN トラフィックのレイヤ 3 スイッチングを可能にするには、イネーブル EXEC モードで次の手順を実行します。

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>interface vlan <i>primary_vlan_id</i></code>	プライマリ VLAN でインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始して VLAN を SVI として設定します。VLAN ID の範囲は 2 ~ 1001 および 1006 ~ 4094 です。
ステップ 3	<code>private-vlan mapping [add remove] <i>secondary_vlan_list</i></code>	セカンダリ VLAN をプライマリ VLAN のレイヤ 3 VLAN インターフェイスにマッピングしてプライベート VLAN 入力トラフィックのレイヤ 3 スイッチングを可能にします。
ステップ 4	<code>end</code>	イネーブル EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<code>show interface private-vlan mapping</code>	設定を確認します。
ステップ 6	<code>copy running-config startup config</code>	(任意) スイッチのスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。



(注) **private-vlan mapping** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドは、レイヤ 3 スイッチングされているプライベート VLAN トラフィックにのみ影響します。

セカンダリ VLAN をプライマリ VLAN のレイヤ 3 VLAN インターフェイスにマッピングする際、構文について次の点に留意してください。

- `secondary_vlan_list` パラメータにはスペースを含められません。項目を分けるためにコンマを複数使用できます。各項目には、単独のプライベート VLAN ID またはハイフンを使用したプライベート VLAN ID の範囲を指定できます。
- `secondary_vlan_list` を入力するか、または `add` キーワードを指定した `secondary_vlan_list` を使用してセカンダリ VLAN をプライマリ VLAN にマッピングします。
- `remove` キーワードを指定した `secondary_vlan_list` を使用して、セカンダリ VLAN とプライマリ VLAN のマッピングを解除します。

次に、VLAN 501 および 502 のインターフェイスを VLAN 10 にマッピングする例を示します。VLAN 10 では、プライベート VLAN 501 から 502 へのセカンダリ VLAN 入力トラフィックのルーティンクが許可されます。

```
Switch# configure terminal
Switch(config)# interface vlan 10
Switch(config-if)# private-vlan mapping 501-502
Switch(config-if)# end
Switch# show interfaces private-vlan mapping
Interface Secondary VLAN Type
-----
vlan10      501          isolated
vlan10      502          community
```

プライベート VLAN のモニタリング

表 14-1 に、プライベート VLAN モニタ用のイネーブル EXEC コマンドを示します。

表 14-1 プライベート VLAN モニタリング コマンド

コマンド	目的
<code>show interfaces status</code>	所属する VLAN を含む、インターフェイスのステータスを表示します。
<code>show vlan private-vlan [type]</code>	スイッチのプライベート VLAN 情報を表示します。
<code>show interface switchport</code>	インターフェイス上のプライベート VLAN 設定を表示します。
<code>show interface private-vlan mapping</code>	VLAN SVI のプライベート VLAN マッピングに関する情報を表示します。

次に、`show vlan private-vlan` コマンドからの出力例を示します。

```
Switch(config)# show vlan private-vlan
Primary Secondary Type          Ports
-----
10      501      isolated    Fa0/1, Gi0/1, Gi0/2
10      502      community   Fa0/11, Gi0/1, Gi0/4
10      503      non-operational
```